

# 投動作及びバドミントンの打動作における学習が相互に及ぼす影響

藤田育郎(信州大学教育学部) 竹内美翔(千曲市立埴生中学校)

キーワード: オーバーハンド・スロー, ハイクリア, 教材・教具

## 1. 目的

投動作の「オーバーハンド・スロー」とバドミントンにおける打動作である「ハイクリア」は、非常に類縁した運動構造を有している。

本研究では、「オーバーハンド・スロー」及び「ハイクリア」の動作習熟を目指した学習が相互の動作に及ぼす影響について検討することとした。なお、このことによって双方の動作における主要な学習内容のポイントを抽出することできると考えられる。

## 2. 方法

### 【対象者】

S大学の女子学生6名を対象とした。対象とした学生の中には、ソフトボールやバドミントンなどのラケット・バット系のスポーツを専門的に経験してきた者は含まれていない。

### 【指導プログラムの内容】

対象者を投動作練習群(3名)と打動作練習群(3名)に区分し、双方の動作に共通する技能の向上を意図した指導プログラムを経験させた。なお、指導プログラムの前後に「オーバーハンド・スロー」及び「ハイクリア」の技能テストを両群において実施した。

### 【分析項目】

#### ①投球速度及び打球速度

技能テストにおける投球及び打球速度の計測は、Dart Fish Software(ダートフィッシュ・ジャパン社製)を用いて行った。

#### ②投動作及び打動作の観察評価

「オーバーハンド・スロー」及び「ハイクリア」の動作について、「①テイクバック」「②体の向き」「③スイングの始動」「④体重移動」「⑤スナップ」と、投動作のみ「⑥リリース」を動作評価観点として位置づけ、「○…できている」または「×…できていない」として観察評価を行った。

## 3. 結果と考察

#### ①投球速度及び打球速度

表1は、指導プログラム前後における投球速度及び打球速度を示したものである。

表1 指導前後の技能テストにおける投球・打球の平均速度(km/h)

	投動作練習群			打動作練習群		
	前	後	変化	前	後	変化
投球速度	46.8	61.2	+14.4	51.8	59.0	+7.2
打球速度	82.8	96.5	+13.7	77.8	90.0	+12.2

両群において投球速度及び打球速度の向上が確認できた。このことから、「オーバーハンド・スロー」及び「ハイクリア」の学習は、相互の動作に影響を与えていることが指摘できる。なお、速度変化に着目すると、打動作練習群における投球速度の増加が一番低い水準であった。このことは、投動作の習熟がもたらす効果の大きさを示していると言える。

#### ②投動作及び打動作の観察評価

表2は、各動作評価観点について観察評価を行い、「○」の評価となった人数を示したものである。

表2 指導前後の技能テストにおける観察評価の結果

	投動作練習群				打動作練習群			
	スロー		クリア		スロー		クリア	
	前	後	前	後	前	後	前	後
①テイクバック	1	3	0	2	2	3	0	2
②体の向き	1	3	0	1	1	3	1	2
③スイングの始動	1	3	1	3	2	2	2	3
④体重移動	0	1	0	0	2	3	1	2
⑤スナップ	0	2	0	3	3	3	1	2
⑥リリース	0	3	—	—	1	1	—	—

投動作の「⑥リリース」の項目において、投動作練習群では3名すべてが指導後に「○」の評価になったが(指導前:0名→指導後:3名)、打動作練習群では「○」の人数に変化がみられなかった(指導前後ともに1名)。「○」の評価にならなかった2名については、リリース時にボールが抜けてしまう様子が確認でき、このことが投球速度の停滞傾向に影響していたとともに、投動作における学習内容の主要なポイントとなることを示唆していると思われる。